山東庵
京山作
志ん松
上

遠 3
2378
42

菊壽童

霞盃

文政十年丁亥春
山本榮久堂鐫

秘笈之印

我たる年
かりときくよりて
出身乃
さいぬのつきて
事をしるを
ひとゝ出嘯
る

晩香常冷
凝丹粧秋色
村々點
綾麝

點菊元人謝宗
可之句
東水子

嘉慶十年亥新板

方上より
時の愍
女もよぎ姫
菊が枕の
菊壽童

実ハ藤原宗行
公達翁九
乳母ゆぎこ
時の家来
尾花清十郎
景色の地ゑり
菊川の水

兼久記曰

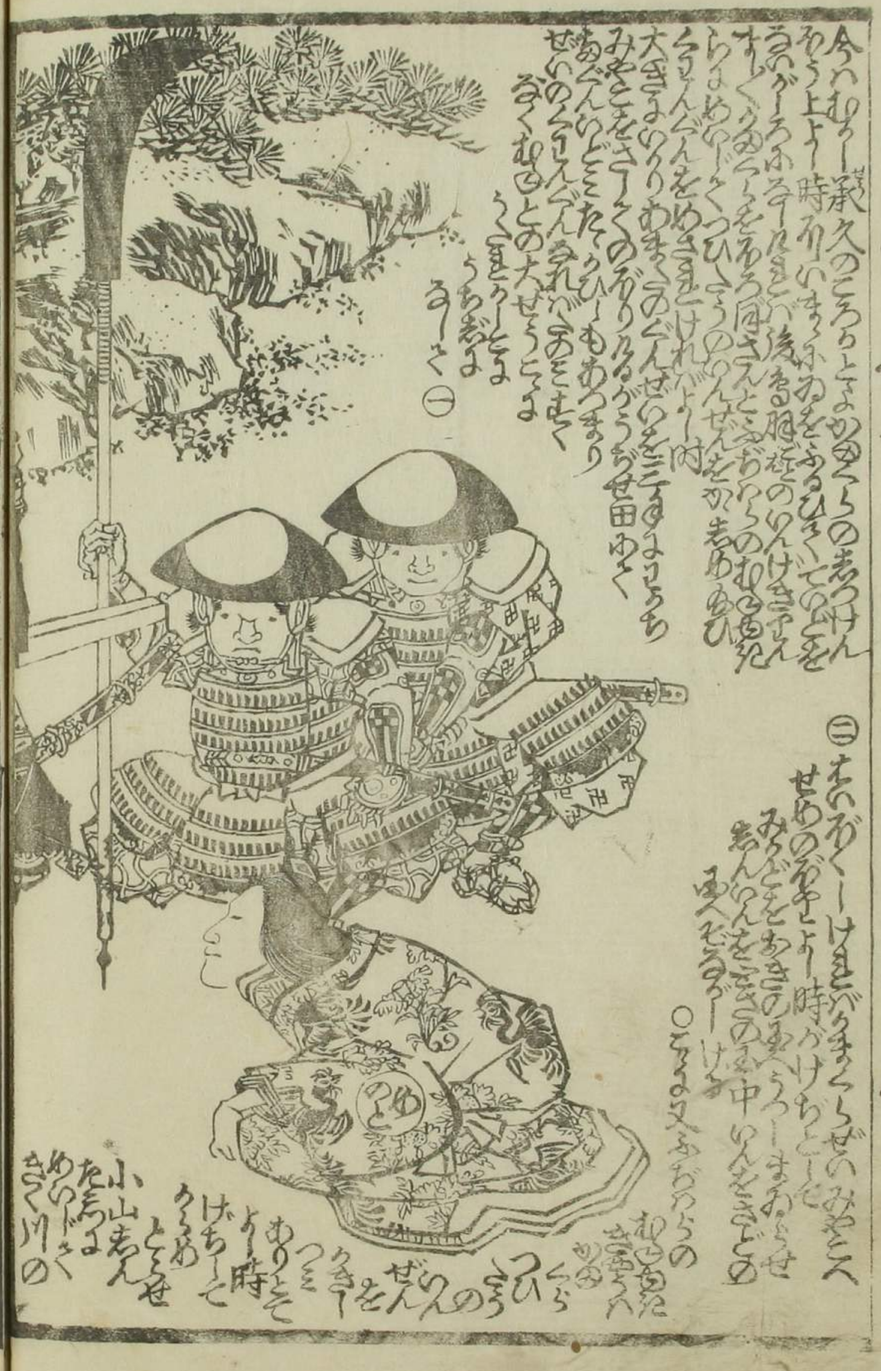
兼久三年七月
中御門前
中納言
宗行卿い
小山新左
衛門尉
具一奉て
下ったぶ
遠江の
菊河の
宿小著の
妻ぞ何ぞと

小山新左ヱ門

河の菊河とは
則前より流るゝ
さいはひとやれば
視を出て宿の
柱に書付ぬ
云々

○これを一ての
種として
慈童が
菊を培て
其の拙き
草ぞうー
とゝ
ゑぬ

昔南陽縣之
菊水汲下流延齡
今東海道之菊川
宿西岸之命



かて小山ちん
たをつこうかる
山ちをすぐる
まりの
ちまこから
とあがり
あろげ
のそく考！

たたがまは
ゑをつた「ことろの
ゆられるあきる
九どくゆのとあく
いぐゆられこの世のいとあ
ぐいよろさこのあゆり
さあをもくをもりしく
ゆるゆたゆくたきく
ちもひと目ふまれら世
さくみやとろりあん
ゆをたきこひるぐ
れまぐきゆりいたぐ
ひとくまあんるきけを
ドいひきりとろゆる
をたをあーゆをく
さゆぐくとるきけはが
ちんたらゆのとまゆひ
ゑすゆがれがひさると

ぐらゑゆよりもより時
どのさてつゑれびとて
しのそろこひゆろりぐて
けれどゆるよもともめに
つをされびるゆるをもきびた
まぐゑおゆろるけゆく
きるゆもゆもゆろもベート
とよりゑをとろいぐて
ゑろいをこれへとさづよ
まろせろくてよりて
きるゆもをたをけ
いぐてゑれがヤァめの
ろるゆろーやトとり
つをちりゑをあくい
ゆろいてゆをろゑ
まあてをゑを
けるゆをりゆ
ゑをろるゑゆり
ゆるゆたのゑよ
ゆろひゑをのゆ
ゆろをけゑをん
ゑるけゑをん
ゆろさるゆをろ
ゑりさゆまと
ゑりゑゆをんを
ゑゆらゑベート

清
夏
山石

田
た

猿寿童

五渡亭國貞画

中

山東庵京山作

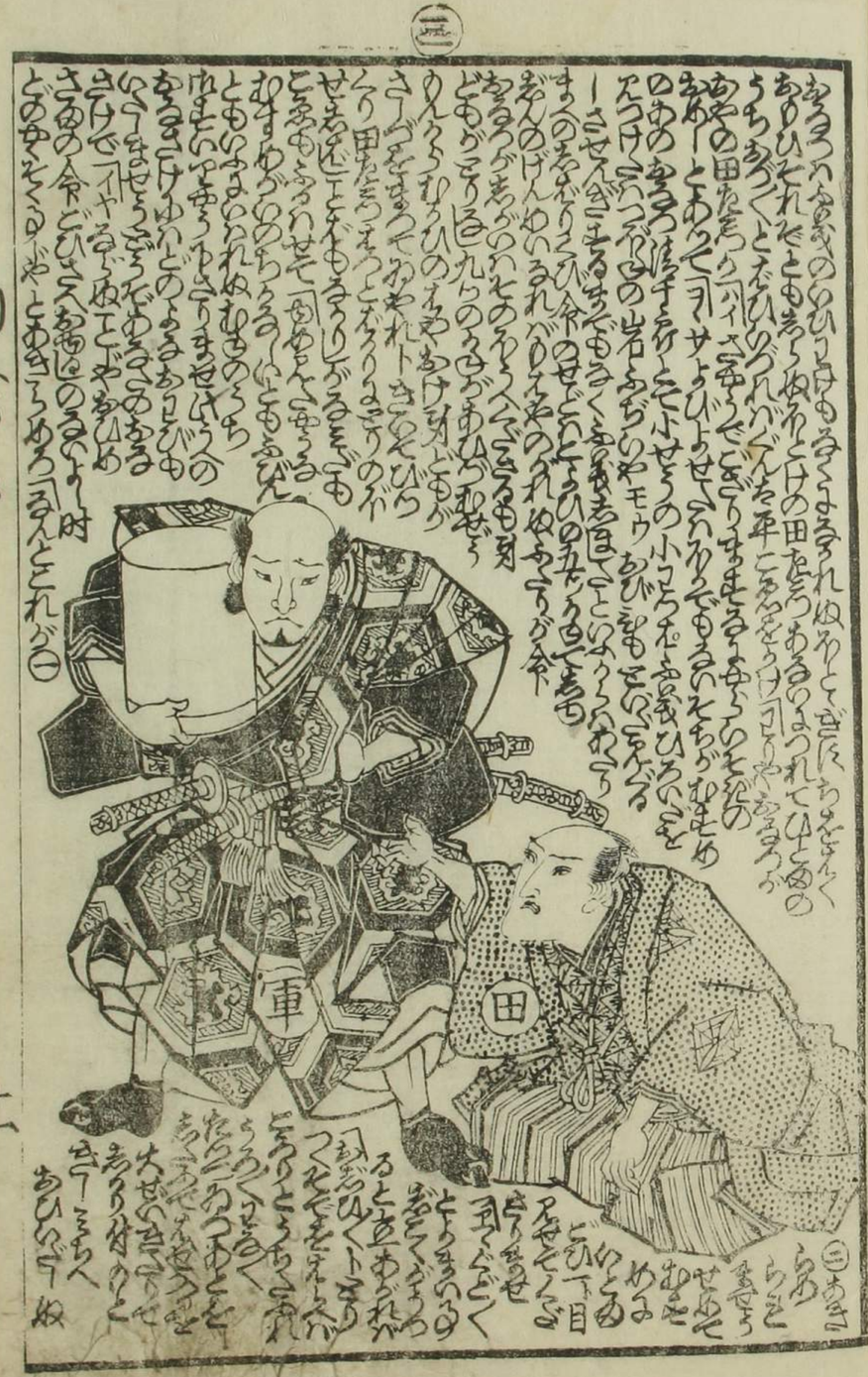
五渡亭國貞画

山東庵京山作
五渡亭國貞画

菊壽童霞杯

丁亥春

東都 ゑゝ〜町 新仁橋角 山本平吉蔵版



佛

佛
佛

上
軍
星
要
青
夏

寿

ま

寿

御大名火消
定火消御役
火事御出役

御場所附並いろは番組町火消附

両面摺

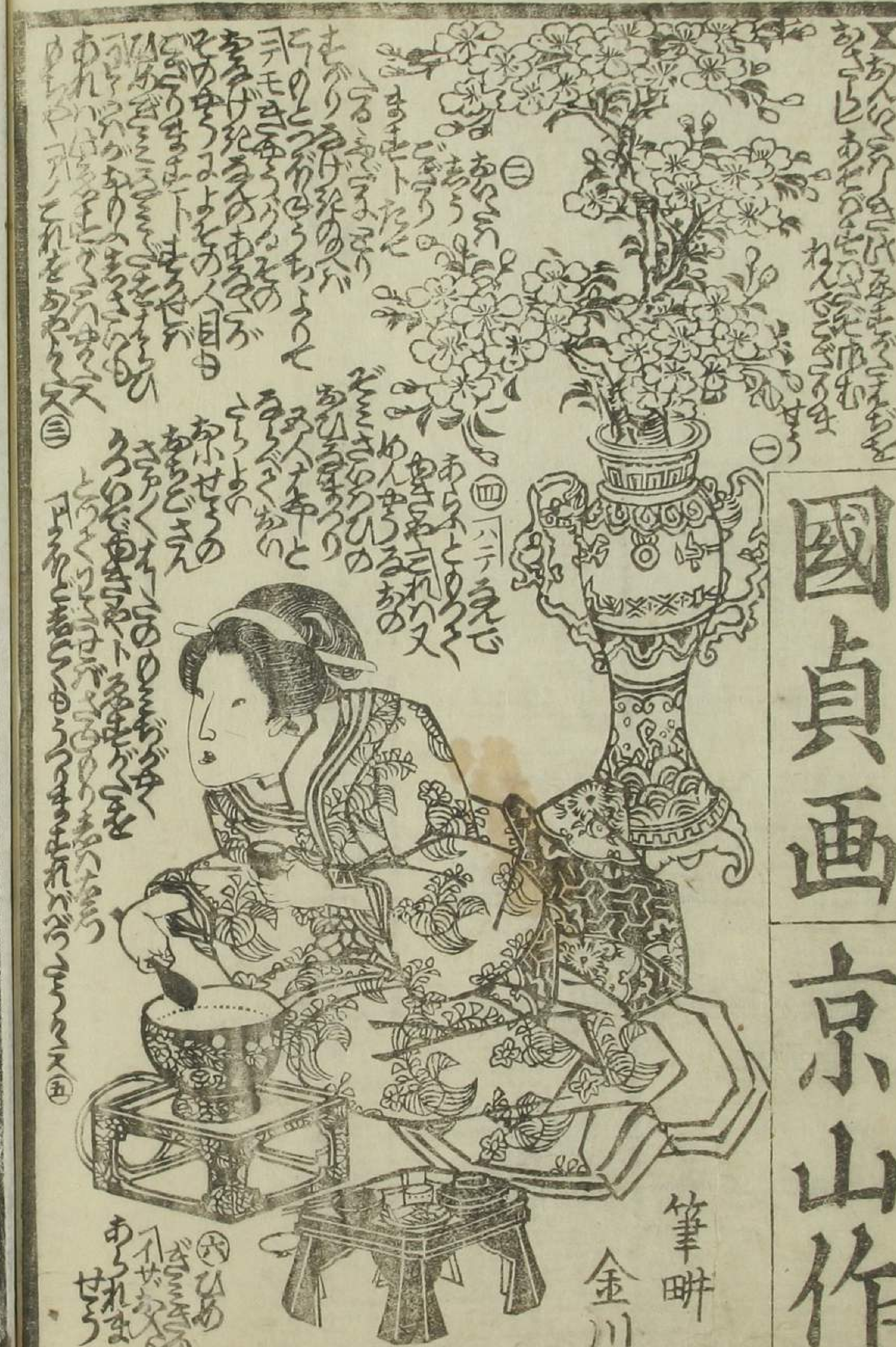
此書ハ火事場諸出役の陣名等の印を場所付にくハしく記載せ
並ニ町火消人足の取纏并ニ町名等の目印いろは組合の手

新板 江戸 本所 深川

いろは組纏はらくし

両面摺

江戸 山本平吉 板



二十

愛殿盃

下

山本榮久堂

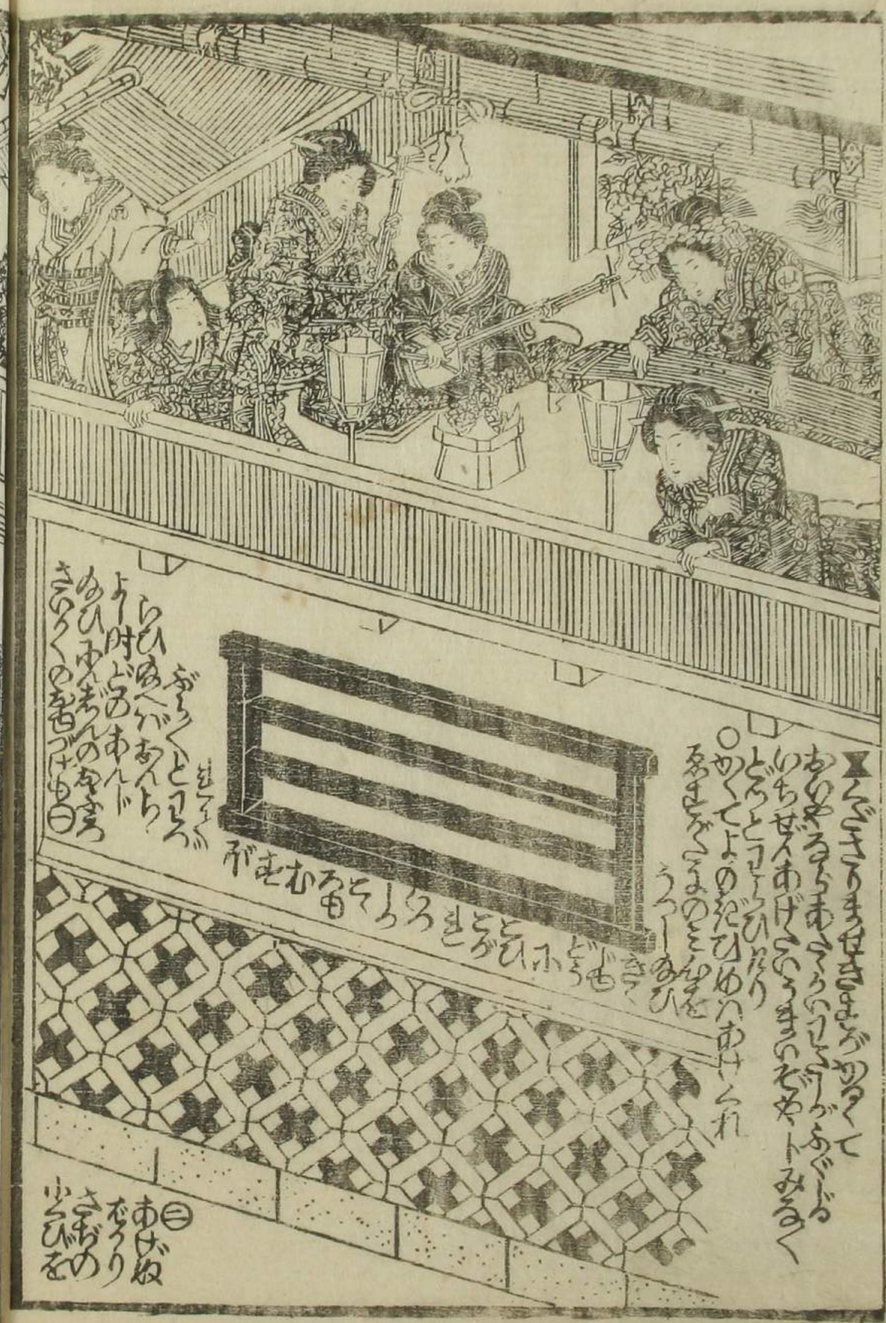
鶴屋南北戯作

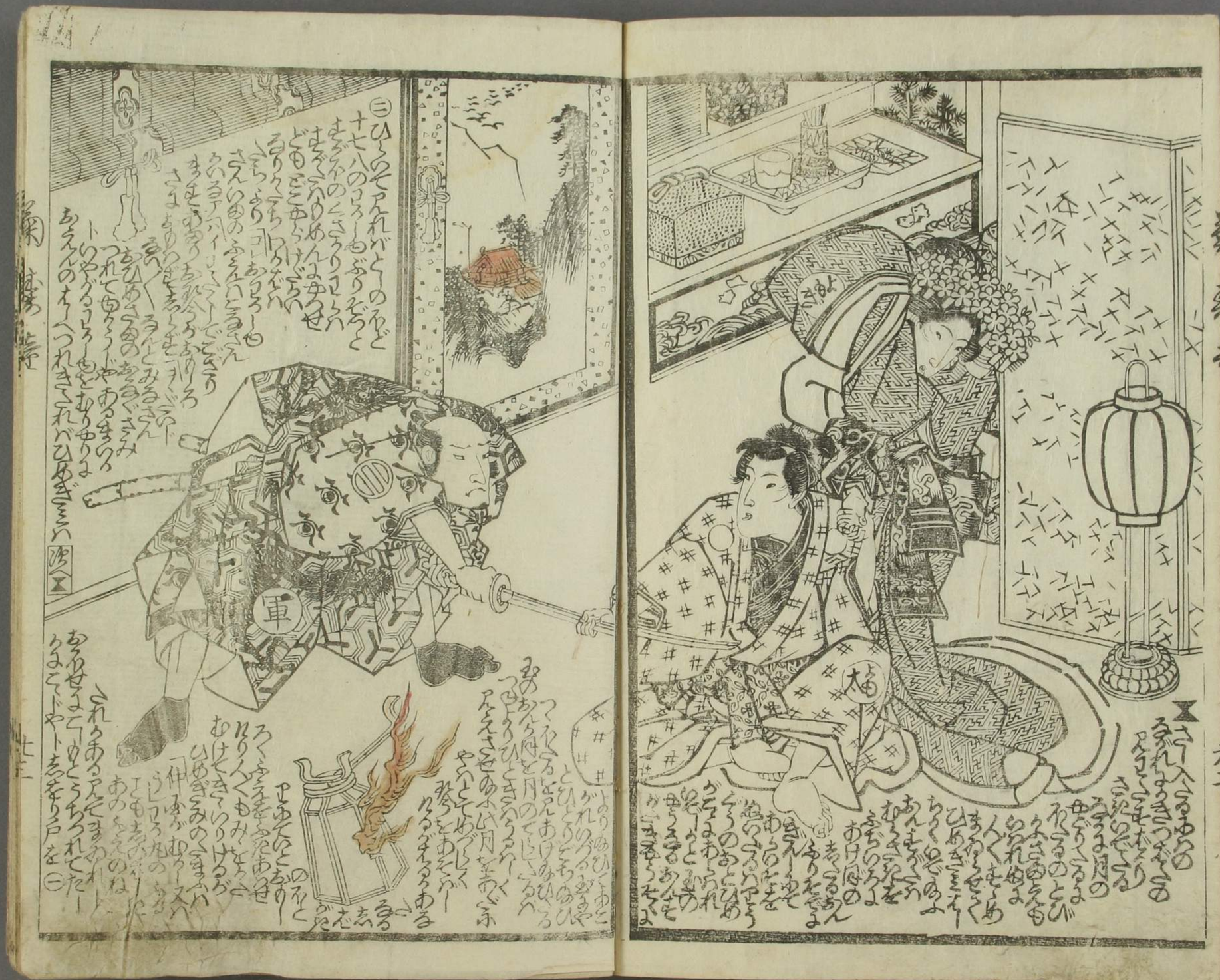
尾上梅幸難波の聞書

怪談岩倉万之丞

来戌子春 出板 山本平吉發販

五渡亭國貞戯毫




大角
軍

○女粧考　京山人百樹編

○食物沿革考　同編　近刻

○和漢印章考　同編　同

○骨董集三編京傳遺稿　京山補訂　近日開板

小六
よもぎ

美
清

筆 畊谷金川
彫工 村越茂蔵

文政十亥春發新版稗史目録

柳亭種彦作
山東京山作

人形筆五色絲藏 全十二冊
前編六冊後編六冊
有馬の隠狼 水調子
五渡亭國貞画

菊壽童霞盃 哥川國虎画

伊達安辰巳八景 哥川國安画
撫の名震 沛川三升作

志賀の春金十連 三升作
雪麻呂作
國貞画

梅川相合駕江之島詣 國貞画
忠義帯

逢見茶娘入小袖 歌川豊國画
相生の松一色 万歳の賑ひ

想合對菅笠 豊國画
阿夏清十郎
十返舍一九作

露時雨駕乃渡 北尾重政画
美艶仙女香 平綱

地本類
問屋 榮久堂 江戸より町
さらし橋角 山本平吉藏版

小高氏